

サンディエゴ日本人教会トピックス【2018年3月】

イースターおめでとうございます！

春の芽生えに心もほころび、街路樹の息吹が聞こえてきます。天地をお創りになったお方の創造の素晴らしさを仰いで感謝するイースターシーズンです。

サンディエゴ教会では、色々なイベントがあり、子供達の楽しみの一つ、イースター・エッグハントや、楽しいピクニックが催されました。

その後、皆さん、いかがお過ごしですか。神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. 婦人会での証
2. 教会大掃除
3. イースター・ピクニック
4. グッド・フライデー集会

1. 婦人会での証

3月18日（日）は婦人会の例会では司会者をはじめ賛美溢れるそして、祈りの詰まれた恵みある集会となりました。今回は尊いお証がありまして今月はお二人の証を掲載させていただきます。

英子姉： お父さんの事

今日は、今年の1月13日に亡くなった、私の父の話をしたと思います。父は昭和二年、大阪の此花区という淀川の近くで生まれ育ちました。父のお腹には、胆のうを取り除いた時の大きな手術跡がありました。それはまだ私が生まれた直後の事だったので、今だったら簡単な手術で終わっていたかもしれないけれど、半世紀前の日本では大変な手術だったんだらうな…と思います。それ以降、父はとてもお腹の事に気をつけていて、いつでも毛糸の腹巻きをしていたのを今でも覚えています。

父は、本当に真面目な人で、70歳位になるまでサラリーマンとして仕事をしていました。父が出ていく時間はいつも朝の7時20分頃で、駅まで20分の道のりを歩いて毎朝同じ電車に乗って会社に行くのが日課でした。

自分が年をとるにつれて、家族を養って行くことがどんなに大変な事だったか…という事を考えるようになり、本当に長い間、家族のために頑張ってくれた事を感謝だな…と心から感じています。

いつも健康に気をつけていた父でしたが、7～8年前位から歩くとつまづく事が多くなりました。ある日、道を歩いている時に前のめりで倒れて、頭を強打して大怪我をして、そのまま救急病院に運ばれる事があったのです。その時初めて、父が「水頭症」という病気になっている事がわかりました。

水頭症とは、脳に水がたまるために、脳を圧迫して、そのため歩きにくくなり、アルツハイマーに似た症状がどんどん出てくるという病気です。アルツハイマーとの大きな違いは、水頭症は、手術をすれば症状はすぐに良くなるという事でした。先生はすぐに手術をする事を勧めたのですが、頑固な父はそれを断固として拒否したのです。若い時に大きな手術をした為、手術への恐怖心があったのかもしれない。どうにか手術する事を受け入れたのは、病気が判明してから数年後の事でした。手術は無事成功し、脳の水を体外へ自動的に排出することができるようになったのです。でも、手術のタイミングが遅れたので、水頭症の後遺症が残ってしまい、手術後も今までと同じように、歩くのが大変で、あまり話ができないままでした。母は、そんな父の介護を献身的に続けていたのですが、今度は

母の方が倒れそうになってきたので、3年前位からは父は介護施設に入る事になりました。介護施設ではとてもよくお世話頂いたのですが、施設の中で車椅子を使うようになったので、次第に歩けなくなってしまいました。すると、徐々に寝たきりになって、自分でトイレへ行く事も、寝返りをうつこともできなくなってきました。また、介護施設にいても、肺炎を起こして病院に入院する事が多くなってきたので、半年前からは介護施設を出て、病院の中で介護を受けるようになっていました。

父が危篤だという連絡があったのは、今年の1月8日の事です。実は去年、母の様態が悪かったので、私は日本へ3ヶ月滞在してアメリカへ帰ってきたばかりで、その時に、もう少し元気な父にも何度も会っていたので、今回日本へ帰ろうかどうか悩みました。でも、私にとって1番気がかりだった事は、父にまだ福音を伝えていない事でした。イエス様を信じている私達クリスチャンは、亡くなったら天国へ行けるという約束があります。でも、父がイエス様の事を知らずに亡くなったら、父は天国に行けないかもしれない…。将来、天国で会う事もできないのです。

父はお寺巡りが好きで、仏像にも大変興味がありましたし、お墓の手入れもいつもしないといけないとよく言っていたので、信仰心はある方だったように思います。ただ、イエス様の事を聞くチャンスはなかったようです。イエス様の事を知らずに亡くなった場合は、死んだ後もう一度救われるチャンスがあるという、セカンドチャンス説を聞いた事もありました。でも、セカンドチャンスがなかったら、どうなるのでしょうか？父がイエス様を信じて天国へ行けるかどうかは今しかない、そして父にイエス様の事を伝えられるのは私しかいない、それが何よりも一番大切な事だ、と思ったので、私は日本への帰国を決意しました。

帰国後、私は母と弟と一緒に父の病室へ向かいました。病院のベッドで、腕に点滴を打ちながら酸素呼吸器を口にくわえて苦しそうに寝ている父の体は、とても小さくなっていました。固く目をつむっていて、意識があるかどうかはわからなかったのですが、でも、父に最後の言葉を伝えました。

今まで伝える事ができなかった、父への感謝の気持ち。父が一生懸命働いてくれたから、私たち家族がこうして平和に生活していく事ができたこと、父がとても可愛がってくれた私の息子も今は仕事をして立派になった事。

それから、イエス様だけ神様であり、イエス様を信じたら天国に行ける事、天国に行ったら今みたいな苦しみはなくなって楽になること、行きたい所へ自由に行ける事、天国には永遠の平和があって、光り輝く美しい場所である事、等を伝えました。

父はかすかな、でも、できる限りの声で、私の言葉の一つ一つに一生懸命返事してくれていたのので、父が意識を持って私の話しを聞いて、それに同意してくれている事がわかりました。固く閉じた父の目からは涙が流れていました。私はその後、父の前で最初で最後のお祈りをしました。私の母と弟も私のお祈りを側で聞いていてくれました。その翌日の早朝に、父は天に召されました。本当に最後の最後でしたが、臨終に立ち会い、父にイエス様の事を伝えられて本当に良かったと思います。私は、父がイエス様を信じて天国へ行った事を確信しています。家族に伝道するという事は、とても難しいし勇気のいる事なのですが、今後は私の母や弟たちにも必ず伝道する気持ちでいます。今日は最後までありがとうございました。

須波美枝子姉

2月2日に車の事故に遭遇し、私にとって思いもよらぬ最悪の一日となってしまいました。フリーウエーではなく、何の変わりもない慣れた道であったことは不幸中の幸いでした。左から来る車に気を取られ、目に入った時、ハンドルを切ったと思った瞬間ドンと言う鈍い音と共にブロックの壁にぶつかっていました。一瞬何が起ったのか分からず、気がついた時は救急車の中でした。ガヤガヤと人の声がきこえていました。

私は声をかけられ「あなたのお名前は？」「あなたの生年月日は？」と聞かれました。その時私は、「え！生きていたんだ」と思った瞬間、力がぬけていくのがわかりました。それはエアバッグのお陰で外傷はほとんど無く、手首を少々傷つけただけで、骨一本も折れてはいませんでした。打撲による脇腹の痛みは少々長引きましたが、数日入院し、その後家で安静にし養生しました。こんな軽い怪我で済んだことは有難く、神様のお恵みを深く思いました。

車社会のアメリカでは尚のこと、この事を通し、人生、毎日の生活において突然降りかかる事故があるものだと知らされ、このようなことは自分には起りえないと、思い上がっていた私は、事故を通し私の思い上がりの心が砕かれ、何事もへりくだった態度が必要なのだと知らされました。

退院してからは、風邪を引きエマージェンシーへ駆け込んだり、この一ヶ月教会の集会も休んだり、とても大変な経験をしました。私は神様にしっかりと守られ、強められ、癒された感謝の日々へと変えられました。娘や孫達にも心配しをかけましたが、この事を通して家族の絆が、もっと深まったように思え感謝しています。

「何時いかなる時でも、その人が倒れても、全く打ち伏せられることはない。主がその手助け、支えられるのである」のみ言葉に励まされ、主の尽きないご愛をありがとうございます。心の弱った時に私達を助け、強め、支えられる主の溢れんばかりのお恵みを感謝いたします。大倉先生をはじめ姉妹方の心温まるご愛とお祈りを心から感謝いたします。

2. 教会大掃除

恒例の教会大掃除がやってきました。イースターに向けて主の宮をきよめようと教会挙げて働き、みなさんは雑巾を持って駆けつけました。蘇りのイエス様をお迎えするに相応しく、隅から隅まで、朝早くから働く姿は実に麗しく、一同の心が主をお迎えするイースターを前に励んでおられ、とても綺麗になりました。高齢の方々はお手伝いは出来ませんが、出来ることをさせて頂こうと、お昼の食事を運ぶ方々も見受けられ、そんな形で協力されていて、美しい光景でした。これでイースターを迎えるに相応しく、皆さん心から気分良く働かれておられ、感謝でした。皆様ご苦労様でした。

3. イースター・ピクニック

3月25日（日）礼拝のあと、午後12時30分より、教会の近くにあるゴールデン・ヒル・パークで、イースター・ピクニックが催されました。晴天に恵まれ、家族ぐるみで楽しめるイベントで、特に子供達は楽しみにしていたエッグ・ハントがありました。またゴスペル・フラによってイエス様を賛美し、野外行事を大いにエンジョイしました。教会の皆さんのご好意によるご馳走は、テーブルいっぱいになり、美味しい匂いが一面に漂い、皆さんとてもエンジョイし、良い楽しいピクニックデーとなりました。

4. グッド・フライデー集会

サンディエゴ教会では、日英合同恒例のグッド・フライデー集会が3月30日夜7時より行われました。今回も十字架上の七言のイエス様の語られたみ言葉からのシェアがありました。

静まった会堂には続々と人が集り、イエス様の十字架上のお苦しみを偲び、祈りつつ、このひとときを過ごしました。この皆様のシェアは3月号特集として逐次掲載いたします。

ラッドとし子